
在宅医療における多職種連携について

馬場義親
(馬場内科・循環器内科クリニック)

在宅医療の起源は、1986年に訪問診療の概念が導入され、『寝たきり老人訪問診療料』や『各種の指導管理料』が新設されたことに遡る。その後、1994年『在宅時医学管理料』『在宅末期総合診療科』『ターミナルケア加算』等が創設され、在宅での終末期医療の評価の充実が図られた。以降、何度か制度の改正が行われ、現在の在宅医療の姿ができあがっている。

このような制度の充実に加えて、多職種の連携が在宅医療の質の向上に果たす役割も大きい。今回、在宅医療に関わる多職種のなかでも、『ケアマネージャー』『訪問看護師』ならびに病診連携に重要な役割を果たしている『病院の地域医療連携(支援)部』の業務内容や地域連携における立ち位置について紹介したいと思う。